

# 道の駅「大山恵みの里」がオープン

## 県西部初の道の駅



▲オープンを祝って大山そばの実演販売

大山町が「大山恵みの里づくり計画」のなかで拠点施設として位置づけている「大山町観光交流センター」が4月4日、道の駅「大山恵みの里」としてオープンしました。この施設は国土交通省まちづくり交付金を活用して建設を進めてきたもので、3月12日、県内では道の駅若桜「桜ん坊」に次いで11番目の、そして県西部では初めての道の駅に登録されました。小雨が降り続くあいにくの天気でしたが、施設前テントでの開設祝賀式典には、国や県を始め多くの来賓を迎え、大山恵みの里公社理事長の山口隆之町長が「自然豊かな大山を核にしながら、物販や食事を通じて多くの人に町内のすばらしさを感じてもらいたい」とあいさつしました。その後、ゴスペルオーブによる大山賛歌「わがこころの山」がオープンを花をそえ



▲大勢の人々にぎわう特産品コーナー



▲地産ランチ&カフェ「大山きゃらばく」



▲店内に並ぶ新鮮な商品

ました。オープン後には特産品コーナーのレジに長い列ができるなど、町内外の多くの家族連れでにぎわいました。また、施設前には大山の恵みからす天狗市のテントが並び、大山町そば打ち同好会による大山そばの手打ち実演販売をはじめ、おにぎりやなめこ汁、お茶、天狗焼きなどが販売されました。

道の駅「大山恵みの里」は、地域間交流の促進と地域振興を目的に建設したもので、駐車場は大型車も含め19台が駐車できます。また、特産品販売所や軽食喫茶コーナーのほか、観光情報コーナーや授乳室も備えています。建物は、木造平屋建てで、延べ面積は265.2平方メートルです。

中では、新鮮な地元野菜や果物、米をはじめ、新商品「大山ピーナッツ」、地元のグループによる加工食品、茶、地酒など地元の特産品を中心に販売をしています。また、軽食喫茶コーナーでは、特製だれを使用した揚げ春巻き付き「大山地域野菜どんぶり」や、「大山どり」と「さくらたまご」を使った「親子どんぶり」、陣構紅茶を使ったソフトクリームなど大山の味を安価で提供しています。